



↑こちらのコードから色鮮やかなカラー版をご覧ください。

(1月1日以降)



令和4年4月10日が市制施行記念日です

★富士見市★ 市制施行50周年

水谷公民館だより

編集 水谷公民館だより編集委員会
発行 富士見市立水谷公民館 富士見市水谷1-13-6
TEL049(251)1129・FAX049(255)9886・✉fkm-mi@coral.ocn.ne.jp

激動の水谷50年

⑪「水谷交通事情」

富士見市では、市制当初に東武東上線の駅は鶴瀬駅ひと駅でした。現在は、みずほ台駅、ふじみ野駅が開設され、市内には3駅あります。
水谷地区最寄りのみずほ台駅は昭和52年10月に開設し、この地区に都心への利便性を寄与しました。その後、市内循環バスができて、近年、デマンドタクシーやシェアサイクルといった交通手段が増えて、水谷地区の交通事情を大きく変えました。今回はその足跡をたどってみました。

東武東上線のみずほ台駅開設

1 富士見市の鉄道事情

昭和31年9月の鶴瀬村、南畑村、水谷村の3村合併により、富士見村になり、以降、昭和39年4月に町制が施行され、昭和47年4月に市制施行されました。

昭和32年に、日本住宅公団の鶴瀬第一団地、昭和37年の鶴瀬第二団地の建設をきっかけとして一戸建て住宅や団地が建つようになり、鶴瀬駅周辺を中心に人口が激増しました。
昭和39年4月に町制施行された後、特に昭和40年代に入ってからは駅から徒歩でも20分以上かかる水谷地区等でも人口が増え、鶴瀬駅は東武東上線を利用する人ではあふれるようになりました。
しかし富士見市内の公共交通機関は、40年前でもバス路線は、東武バスが志木と下南畑を結ぶバスと西武バスによる所沢から鶴瀬駅の東口を通り



みずほ台駅新設工事

大宮へ向かうバスなどではなく、水谷地区では鶴瀬駅や市内各所に行くための主な交通手段は自家用車か自転車、徒歩でした。

2 みずほ台駅の開設

昭和47年から昭和55年の間にみずほ台と針ヶ谷地区の土地区画整理事業が行われ、みずほ台駅が開設しました。
公共交通機関の鉄道利用が水谷地区でも身近にできるようになり、新駅を中心に土地区画整理事業地域の宅地化が急速に進み、水谷地区は人口が急増しました。

また、地下鉄有楽町線や副都心線が東武東上線

に乗り入れしました。みずほ台駅の乗降客数も、平成13年度から鶴瀬駅を上回るようになりました。(出典 埼玉県統計年鑑)

富士見市のバス事情

「富士見市内のバス便がない地域の市民の足の確保及び公共施設等の利用促進を図る」との目的をもって、平成9年1月に市内循環バスの運行が始まりました。

路線は、市役所を中心に鶴瀬駅やみずほ台駅西口やふじみ野駅西口を含めた6路線7系統で始まり、水谷地区にも市内各所に行ける公共交通機関が初めて導入されました。以後、路線新設・廃止・ルートの見直し、料金改定等を行い、現在は7路線・運行本数33本で運行しています。

利用者数も順調に推移し、ピークは平成26年度で23万人を上回りました。平成27年度以降は利用者数が減少しており、令和元年度では17万人となり、新型コロナウイルスの影響もあってか利用者数が大きく減っています。また、平成27年4月に大型商業施設であるらら



市内循環バス

ららぽーと富士見が開業したことにより、道路事情が激変し、国道254号線バイパスが、数キロにおよぶ大渋滞となりました。水谷地区でも、渋滞が相次ぎ起きたことは記憶に新しいことです。
鶴瀬駅は、ららぽーとふじみの最寄り駅として多くの買物客が乗降するようになり、大手バス事業者がららぽーと富士見を中心に、鶴瀬駅・ふじみ野駅・志木駅・大宮駅間の路線を開業しました。水谷地区の交通事情としては、ららぽーと富士見へ行くバスができました。

富士見市での新しい試み

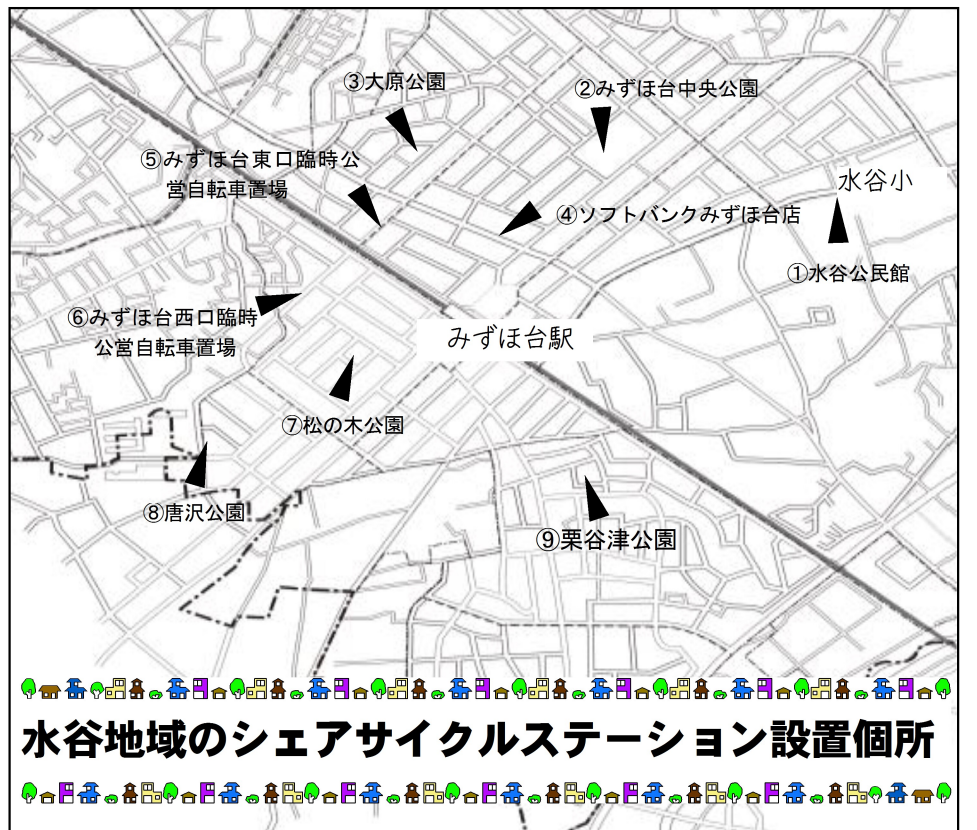
1 デマンドタクシー

市では利用者の利便性を求めに応じて、市内の希望する場所まで利用者のニーズに応じた柔軟な運行を行う公共交通の1つとして「デマンドタクシー」の導入を決定しました。デマンドタクシーの目的は、市内循環バスの移動を補完する移動手段を担うことです。

平成29年8月から30年1月末までの実証実験後に、令和元年6月1日から運用が始まりました。
デマンドタクシーは、70歳以上の高齢者層に多く利用されており、割合は全体の60%以上を占め、高齢者の移動手段として多く活用されています。

2 シェアサイクル

シェアサイクルとは、他の人と自転車を共有す



水谷地域のシェアサイクルステーション設置箇所

ることにより、必要なタイミングで必要な分だけ自転車を利用することができるようになります。

令和3年7月19日から令和5年3月31日の間でシェアサイクルの実証実験が始まっています。

実証実験の目的は、公共交通の機能を補完・代替、※スマートムーブの推進、地域の活性化などに資する新たな都市の交通システムとしてのシェアサイクルの有効性及び課題を検証することです。

富士見市内のシェアサイクルステーション設置箇所が21か所あり、水谷地域には、9か所あります。

- ①水谷公民館
- ②みずほ台中央公園
- ③大原公園
- ④ソフトバンクみずほ台店
- ⑤みずほ台東口臨時公営

自転車置場
⑥みずほ台西口臨時公営自転車置場
⑦松の木公園
⑧唐沢公園
⑨栗谷津公園

これまでの利用実績では(令和4年3月31日現在まで)のべ回数およそ2万回、利用人数はおよそ8千人になり、新しい交通手段として認知され始めています。

※「移動」のためのCO2排出量削減に向けて「エコで賢い稼働方法」を選択する新しいライフスタイル。

